

ラオスは安価な人件費や豊富な水力資源を生かした電力供給、5カ国と接し他国と連携しやすいことなどにより、東南アジア諸国連合（ASEAN）における製造業の新たな進出先として注目が高まっています。

一方、人口が約650万人と他のASEAN諸国と比べ少ないことに加え、農業や観光業をなりわいとしている人々が多く、工場勤務に向けた人手の確保が難しいとも言われています。そのため、ラオス進出の日本

## 中小企業 海外展開のツボ

企業の中にはラオスと地理的・文化的な近接性を持つASEAN近隣諸国の人材を積極的に活用する動きがあります。

自動車部品メーカーのA社は工場立ち上げ時に工場勤務の経験を持つベトナム人出稼ぎ労働者を一時的に雇用しました。ベトナム人の賃金はラオス人よりも高くつきますが、短期間で操業に必要な数の労働者を確

# ラオス、近隣国の人材活用

日本総合研究所 総合研究部門 研究員 花井 衣理氏

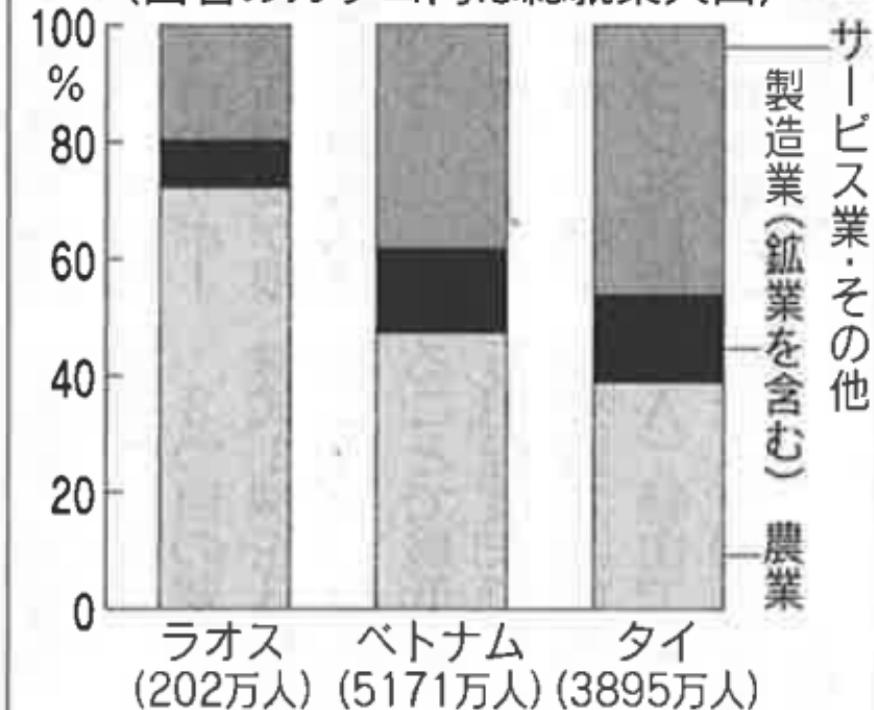
保し、また製造業での労働に不慣れなラオス人のみでの操業という不安を払拭するためにも、ベトナム人の活用が不可欠と考えたためです。

タイに拠点を持つ精密機器部品メーカーB社はラオスの新工場の採用責任者にタイ人を抜てきしました。タイ語とラオス語は似た言語で、通訳を介さずに一定のコミュニケーションが可能です。ラオス人は周辺国

の中で最も発展しているタイに憧れが強く信頼感を持つため、日本人よりもタイ人主導での採用が適切だと考えたためです。

ただし、より継続的に事業展開するには、近隣諸国の人材に頼りすぎず、ラオス人労働者の定着率を高め、教育やノウハウ移転を進めて優秀な人材を抜てきすることなどが必要なことは言うまでもありません。

ラオス、ベトナム、タイの就業人口構造  
(国名のカッコ内は総就業人口)



(注)アジア開発銀行調べ。ベトナム、タイは2012年、ラオスは2010年のデータ